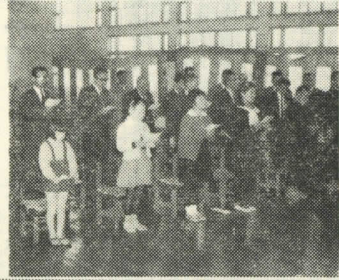
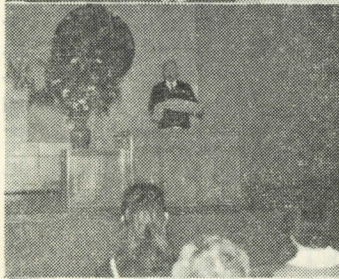


さようなら 大和小学校 九十二年の伝統に終止符

きたるべき日はついにやってきた。二年前電源開発に伴う水没補償仮調印のときに今日の日が定まっていたともいえるだろうが、ついにその日がきたのである。

この日、正確には昭和四十一年三月二十四日、九十二年の伝統を誇った大和小学校の閉校式当日である。学童六人、先生は高瀬秀正校長、永瀬醇教頭、加納章磨先生、阿部まつ先生の四人、村側から杉本村長、尾崎副議長、教育委員会関係、残存PTA、さらに遠く懐旧の情禁じ難く馳せ参じた石神幸太



郎氏、池田澄剛氏ら数名の県外移住の方など総勢約四十名が出席したが、久々に会えた喜びの中にも、心なしか淋しさが感じられた。いつも元気に笑顔で迎えてくれた高瀬校長も、「今日の日を忘れず、元気に健康に注意して頑張ってください」と僅かに七名の教え子に送る送別のことはのはしはしには哀愁の念がこもり、広々と静まりかえった講堂のすみずみにコダマしていた。また学童を代表して山田智子さんの答辞を読む声ははずみ、参加者の一人一人の胸に深く深くきざみこまれてい

た。
最後に大和小学校歌(当時の校長尾崎邦夫氏作詞作曲)
海拔二千五百尺
水辺地帯にそびえ立つ
見よ大和小学校……
と、ほたるの光を合唱して大和小学校は永遠にさようならを告げた。
(注、さきに休校していた日進小学校と、生徒一人となっていた東部中学校の閉校式も兼ねて行なわれた。)

写真説明
①答辞を読む山田智子さん
②送辞と謝辞をのべる高瀬秀正校長
③最後の大和小学校歌を合唱する参加者
④大和小学校玄関で最後の記念写真

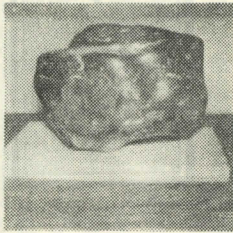
◇ 子供の疑問にはやさしく答えましょう

石 石 石 石 石

石の出る場所ヤイ

人間の欲望には際限がない。一コの石を磨き上げると、さらによりよい石を捜したくなることも、一体この石はどこから出たのか探求したくなる。今までに確認された場所を紹介しましょう。

一、長野地籍 天頭谷、アシ谷、越戸



谷(この地籍には細かい五色で特に白と緑が多く基石である。)
二、野尻地籍 三枚田谷、ダムの土をとる対岸の上流の谷(長野地籍の五色も出る。)

色とはほと同様であるが茶の入った五色も出る。)

三、大谷地籍 大洞谷(茶かっ色の五色が美しい)、此末谷(斑状に礫が入った五色と細かい赤、白、青の入った五色)

四、伊勢川地籍 下伊勢、中伊勢、上伊勢の各谷川および本流に茶、赤、白が多く入っている五色が出る。有名な蜂の巣サンゴ、フズリナ、クサリサンゴ、有孔虫類の入った化石が出る。なお青石(蛇紋岩)も多数出

る。
五、持穴地籍 黒地に赤と青が入った蛇紋岩が多く出る。
六、角野地籍 各谷川に、茶を主体とした中に礫をかむ五色が出る。
七、下大納地籍 早稲谷に石灰岩の白地にほかに紅が入った層状の灰石と茶地の五色が出る。
八、谷戸口地籍 谷戸口の河原と小野谷に白と黒のかみ合わせの面白い石灰石が出る。
九、上大納地籍 黒谷を主体として茶が地色となった基石の中に礫をかむ五色が出る。
十、石徹白水系 小谷堂の懐谷を源として俗称枕石(俵石ともいう)白地に茶の木目の模様を見せて、あたかも木の年輪を思わせる。原石のまま観賞石として面白い。
この外まだまだ美しい石、めずらしい石も数多く出る場所があると思う。そこでなぜこのような石が出るか、専門家の弁によると、和泉村の地質は日本にはおろか、世界的にめずらしいところで特にアンモナイト、二枚貝、サンゴ等の発見で実証され、五色石についてもおよそ二億年前の古世代後期に属して非常に火山活動が盛んであったころの時代にできたという。
また石の成分については
白→石英、長石、石灰
緑→マンガン、茶→鉄分その他
赤→鉄分、黄→酸化鉄
薄桃→チャート
であり、さらに石は、石英、長石(正長石、斜長石)、雲母(黒雲母、白雲母)、角閃石、輝石、かんらん石で殆んどができています。
(次回は石のみがきかた)
写真は、二億年を経たといわれる蜂の巣サンゴの化石

(かじか)

最近県内の或メリヤス会社では新入社員の根性の養成のため歩け歩きの運動を推進しているとのことだが、昨今めざましい交通機関の発達に反発してかめるところ歩け歩け運動が盛り上ってきたようである。国会議員も一日何軒かの歩け運動を提唱しているに聞くと、国を上げてこの趣旨は本心に結構な事だと思えます。これは自動車メーカーの宣伝文句に踊らされてマイカー族を夢みる反面、生れた時から自分のものである二本の足を大いにきたえておく必要がある。いわゆる自然に帰れといいたいものである。人間、元来年とともに身体のうちで先ずガツクリとくるのが足だといわれ足腰が立たねばもう終りだといえるだろう。
ごく最近までは冬期間などは当村より大野市まで殆ど歩いたもので、小春日和に残雪の連山九頭竜の溪流を眼下にながめながら歩くのは足腰の鍛練と気晴し、これこそ心身の保健法にはもってこいの好条件であった。
しかし最近ではいざ歩くと全くとくちよせざるを得ない、当村の現状で大型ダンプトラックが道路狭しと疾走し、道路の到るところはぬかるみ車の専用道路といったら調子で歩行者をへいげいしながら、どろをはね、突走るジープ、ああ本当に歩こうにも歩くところがない位となつてしまつた。
政府の道路施策は高速道路や縦貫道路の自動車専用の道路の整備だけで人間の歩け歩きの道にないのだろうか人間疎外の政治がここにありといわれてもまた止むを得ない事だろう。歩け歩きの運動大賛成全く結構なかなだがその前に何処をどの様に歩きたいかを研究し、事故のないようにしたいものではある。

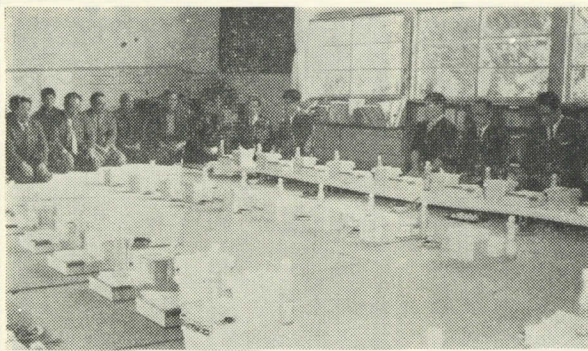
公民館活動花ざかり

二月から三月にかけては、公民館活動の絶好の時期、各分館とも申し合わせたように盛り上りを見せている。中でも婦人学級の活動は目立って盛んである。

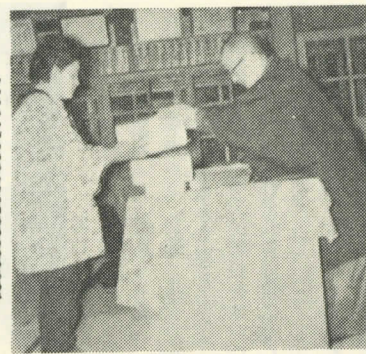
内容も、今までの開く時代、見る時代から、自ら進んで実行してみる時代へと意欲的な動きを見せ、学級の楽しさを身をもって体験し、今後の学級活動が明るくなってきた。

お別れ会

すでに移住が決定している三面、小谷堂両区は、雪どけを待たず、移住する方があるので、さる三月二十七日、お別れ会を開いた。



- 写真説明
- ① 大納分館囲碁学級の楽しい一コマ
- ② 谷口分館長から皆勤賞を受ける長岡とし子さん

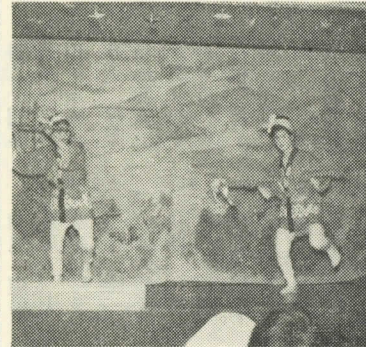
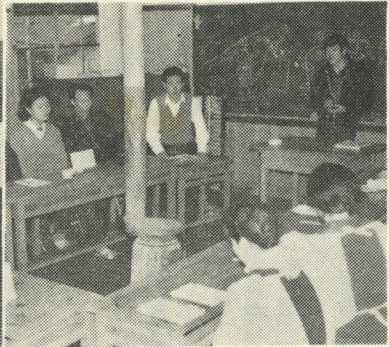


今のところほとんど全員が揃い、あまり淋しさは感じられなかったが、何百年来続いた祖先伝来の墳墓の土地をさるについて、上村区長の挨拶の一言一句には、旧石徹白村の越県合併問題など、苦勞の跡が充分伺われ、胸を打つものがあった。

- ① お別れ会の挨拶をされる上村小谷堂区長と三面、小谷堂両区の皆さん
- ② お別れ会の一コマ



- ③ 岡とし子さん
- ④ 山本先生の講義を聞く後野婦人学級の皆さんと
- ⑤ 心理学の実習をする学級生
- ⑥ 山下婦人学級の学習発表会の一コマ、観覧席からカーチャーンと手をふる子供の姿が見えるようだった

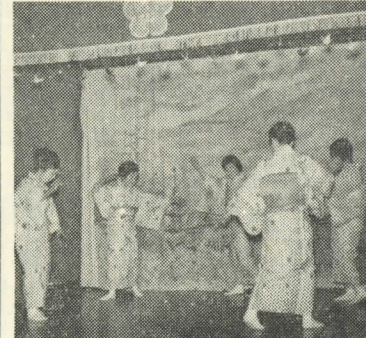


道路を良くする!!

定例村議会の最終日(三月十八日) 議員さん悪路を巡視



村会議員全員で電発のマイクロバスに分乗、国道、県道を巡視した。このあと、鹿島、佐藤、前田の各業者の外、



電発、県工務所の責任者を招いて、道路をもっとよくするように申入れました。

写真は、油取トンネル入口を視察する村会議員一行。

村民の声

道路の早期復旧を

あたり一面銀世界であった冬期間は全く忘れかけていた水害の跡が、日増しに雪衣をぬいで、そのみにくい姿を出してきた。

雪どけの濁流は、まだ全然手のつけない、崩れた護岸を押し流すように削り削り削り。そんな危険な場所が道を歩いていても何か所となく痛々しく目につく。

もはや道路復旧工事は始められてはいるが、とにかく昨年水害のあとからぶつ切り切れた国鉄バスの運休は、大納地区民にとって大変困っている。

安全第一主義の国鉄のことだから、それを望むわれわれの方が無理といえはそうかも知れないが、一日も早く道路の復旧を急ぎ健全なるバスの早期運転開始を期待したい。

また各所でおこなわれている道路拡張工事は決められた通行止時間以外でもなかなか通してくれない。革命の犠牲として少々はがまんしなければならぬが、工事関係者も善意協力していただきたい。

昨年の水害でさんざんに荒された護岸復旧工事も査定は通ったと聞くが、早期着工、完成を期待している。希望の春とはうらはらに、いまにも流されそうな護岸を見ていると、全く心細くなってくる。人家が一番危険な場所から早急に着工していただくよう切望しやまない。

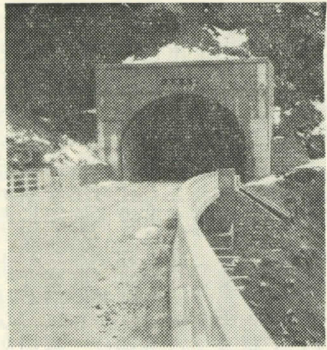
◇ 深い、こころよいねわりは頭の働きをよくする

電源の付替道路完成

四月一日から開通

(川合と大谷間)

電源開発に伴なう川合と大谷間付替道路はいよいよ四月一日から開通した。幅員六・五mの新付替国道は、朝日橋から字形に川合部落の方へ大廻りして鷺ダムの上部(右岸)を通り(旧道から五十mの高さ)、天頭谷を大きくくぐって長野ダムサイト上部にさしかかる。このあたりは、前方にやがて



は水没する大谷、野尻、影路を一望し後ろに長野附近を眼下に見下しできるさらに五色石の多くでアシ谷、三枚田谷を経て、大谷島でくの字に急下して旧道に移っている。まだ一部補修工事中の箇所もあるが長さ二七〇mの長野一号トンネル、同一八五mの野尻トンネルなど五つのトンネルは大型ダンプを雑作もなくすい

写真①は、付替道路の紅白テープを切る永野電発九頭竜川建設所長
② 野尻サンマイ谷橋から野尻トンネルを望む

現わせないものがある。

その昔、志をたてて往時の若者がシンゲン袋を肩に、わらじばきで夜星を仰ぎながら村を出たのもこの道でありまた我が意ならず涙にくれて帰ってきたのもこの道であつたらう。我々の遠く知らないその昔からじつと穴馬の盛衰を見てきたこの道に口があつたら、何というであろうか？ 人に知られない善行も、反対に人の前には出せないおこないも、だまって見てきたであろうこの道。我々人生の生死のごとく、新しい付替道路とやらはらに消えてゆくこうとしている。もの言わぬ道……

我々人生に遠い祖先があるように……いつも穴だらけと小言ばかりいってきかたが、何か我々人生行路と同じような運命を物語っているようで、「長い間ごころう様でした。しずかにお休み下さい」とひたすら願う気持である。いつとはなしに忘れられる道よ、本当にありがとう、さようなら……。写真はありし日の天頭谷口から長野橋附近を望む

長野ダム直下に続く鷺ダムは、昨年十一月十六日河川切替工事から正式着工した。最大出力五万四千キロの湯上発電所は、この鷺ダムを支える高さ四十四mのアーチ重方式ダムと、山原ダムまで約二キロの圧力導水路トンネルで導水し、ここからさらに三・五キロの導水路トンネルで、大野市湯上の湯上発電所まで導水、落差百二十メートルを利用して年間二億六千キロワットを発電する。



湯上発電所関係 (その二)

いよいよ本格化する電源開発

工用建物も七部どおりできた。すでに導水路も鷺ダムから横坑約八〇m、山原ダムから鷺ダムへ五〇m、湯上の方へ八〇m進んでいる。(四月一日現在)

一方、湯上発電所の方も、別の業者が導水路や、発電所の工事を始めており冬期間も無休で工事を進めている。ことは、河床掘削のあと、六月ごろからダムのコンクリート打ちを始め

年内に全体の十萬八千方mの約半分を打込む。また、導水路工事も全長五千四百mのうち二千五百mの掘削と、一部五百m程度はコンクリート巻き立てを終る予定。

これで発電所の基礎ができ、全工事は四十二年中に完成していよいよ四十二年から発電開始の予定という。写真は山原ダム坑口附近

本を選びかた

「うちの子は本がきらいで困りますマンガなら見るのですが、ほかの本は買ってやっても、はじめはちよっと目を通すだけで、ほうり出してしまします。」

よくこんな話をききます。これは小学一、二年生に多いのですが、勉強になる、がまんして読まなければならぬむずかしい本。これはお母さんが読んでおもしろくないはず

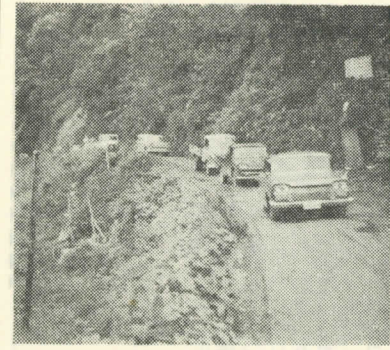
ろい本でなければなりません。内容や言葉の意味や、感覚からくるおもしろさを感じさせる本でなければなりません。子供がお母さんに読んでもらってしらすらすのうちに暗記でき、じぶんで読みたくなるような本。こんな本を見つけて与えたいものです。これはおもしろい、じぶんで読みたい」という意欲が大きくはたらいはじめてこの仕事をやりとげることが

絵のたすけを借りながら、少しづつとだんだん絵のたすけをあまり借りずじぶんの心のなかにイメージを作りながら読んでいくようになります。

生れ変わる穴馬街道

(国道一五七号線)

遠く明治の時代から、幾多の移り変わりを無言でじつとながめてきた川合より、大谷までの穴馬街道がいよいよ湖底にすもうとしている。かわりに幅員六・五mの立派な付替道路ができていよいよ四月一日から開通したとはい



レクリエーションは明日へのエネルギーの蓄積

